

第18回 池田町行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和4年4月15日

午後1時30分～5時

場所：役場2階大会議室

出席者（敬称略）

○委員 9名：（名簿掲載順）

和澤忠志、宮嶋將晴、山沖義和、辻庄市、丸山史子、瀧澤洋子、村端浩、山崎正治、赤田伊佐雄、

○事務局（総務課） 2名：

宮澤達（課長）、塩原長（企画係長）

（司会：宮澤徹）

司会（宮澤総務課長）

お忙しいところお集まりいただき有難うございます。

4月から総務課長となった宮澤徹です。総務課と企画政策課の統合により、今年度から総務課が委員会の担当課となったので、よろしくお願ひしたい。

1. 開会（丸山副会長）

2. 会長あいさつ（山沖会長）

年度始めでお忙しいところだが、よろしくお願ひしたい。

3. 委員依嘱とあいさつ

司会

3月末に退任された大野委員の後任として、信州大学の辻庄市教授が着任され、先ほど町長から委嘱書が交付されたので紹介する。

辻委員

信州大学経法学部の辻です。山沖会長と同じく財務省の出身、5年後輩にあたる。これまで横浜市の財政担当課長、理財局計画官、中国・北陸財務局局長、内閣府の「まち・ひと・しごと創生推進本部事務局」の局次長など、地方財政がらみの仕事をいろいろ経験してきた。ただ、仕事は薄く広くという感じだったので、これからいろいろ勉強させていただき、少しでも貢献できればと思っている。どうぞよろしくお願ひしたい。

4. 第5回第3総務部会報告

事務局（塩原係長）

4月7日（木）午後3時30分～ オンラインで開催。

（記載事項の通り報告）

5. 協議

(1) ニュースレターNo.3について

山沖会長

まず、ニュースレターを発行する方がよいという意見があり、その方向で考えているので、日程について確認したい。

当初、「広報いけだ」に入れてもらえないかと町に打診したが、かなり早めの出稿が必要になるので間に合わないことがわかった。

美術館については、他の公共施設と切り分けて、わざわざ3月中に答申を出したので、別刷りになるが4月27日（水）の広報発行に併せて発行してはどうかと考えている。4月22日（金）までに原稿が固まれば間に合う。原稿も村端委員に協力をお願いして案文を作成した。表現については、今後、修正を加え、案文を固めて発行できるようにしたい。

紙面の基本パターンは従来と同じだが、答申自体が短いので、表面に資料の一部（平面図、今後の検討施設）を載せ、町長への答申手交の写真を削り、裏面ではQ&Aという形式にした。

そこでまず、ニュースレターを出すことにしたいがどうか。（確認）

では、案文について何か意見があればどうぞ。

村端委員

文章は山沖会長から頂いたものを載せているが、若干私の方で直したところもあり、それは事務局に伝えてあるので加味してほしい。

また、ニュースの今後のあり方についてだが、答申が行われた場合には、行政側として必ず町民のみなさんにその内容を知らせることを原則にしてほしい。委員会側の紙面の作成については必要があれば併せて掲載してもらおうというやり方でよいのではないか。ニュースは答申毎に原則出すべきだと考える。

山沖会長

事務局とは、ニュースは出した方がよいと話合っていた。町の方としてはどうか。

事務局（塩原係長）

その通りでよい。

山沖会長

今の村端委員の提案の通り、今後も答申の度にニュースは必ず出すということできたい。裏面についてはその都度検討するということにしたいがどうか。(確認)

なお、文面についての意見は、遅くとも18日(月)の昼ごろまでに事務局に伝えていただきたい。

宮嶋委員

表面の一番下にある、ハーブセンター(本体)、ハーブセンター(食堂)・・・などという表現は適切か。

事務局(塩原係長)

個別施設計画では、一番上はハーブセンターでよいが、その下の2つの正式名称は活性化施設1号とか2号となっている。2ページの資料では施設名(「野のかおり」、「シャノアール」など)となっており、いずれにしても分かりにくいので、ハーブセンター本体と一体の施設だということが分かるようにしたつもりだ。もう少し分かりやすい表現があれば指摘してほしい。

宮嶋委員

菓子店と書いてある施設は、もとは県の加工施設で、その後県から町に移管された。その際に条例上、公共施設として位置づけているのかどうか。

宮澤総務課長

条例上は、活性化施設1号館、2号館と位置づけている。

宮嶋委員

ニュース案の表現では、ハーブセンターが3つも並んでいるので町民には分かりづらい。町民から見て、ハーブセンターと言えれば大きな施設を意味する。この点は検討してほしい。

山沖会長

県道の西側とか東側とかで分けるのはどうか。西側は同じ「てる坊市場」の管理になっているので、「ハーブセンターと関連施設」という括りでもいいかもしれない。事務局で検討してほしい。

宮嶋委員

この前の部会が終わった後、会長にニュースレター3号を出した方がいいのではないかとメールした。前向きに意見を取り入れて、案文を作って頂き、言い出した私にも配信しても

らい有り難く思った。その後、山沖会長からQ3を入れた方がいいという意見があり、まもなく村端委員がそれを入れた修正案文を配信された。私としては、それでよいと思い、その旨を皆さんにメールしたが、直後に事務局からワードで作直したから見てほしいというメールが届いた。どうなっているのかと思って見てみると、表面は原案とは違っていたけれど、裏面は村端委員が作成したものとまるきり同じだった。ワードで作直す意味が何かあるのか。全く同じなら、村端委員のものを利用して出せばいいのではないか。事務局が手間をかけ、議事録も忙しくてやれないという中で、なぜこのようなことをやっているのかを聞きたい。

山沖会長

村端委員からの修正原稿が届く前に、事務局にはワードで作ってもらうように指示しており、昨日は事務局も私も大変忙しい中で、十分チェックせずに作ってしまったということではないか。

事務局（塩原係長）

その通りだ。

宮嶋委員

いや、村端委員のつくったものと違うならいい。ところが、一字一句同じではないか。なぜワードに置き換えるのかと聞いている。そんな時間があるのなら、議事録も事務局でやるべきだ。やっている流れがおかしい。

山沖会長

そこは、時間差があったということだ。

宮嶋委員

せっかくやってくれる人がいるのに、ワードにわざわざ置き換えているところが、私にはクリアできない。

山沖会長

Q3を作ったときにすぐ送って、村端委員でも作業されたと思うが、町の方でも作業されたということだ。村端委員からの原稿が出てくる前に作り始めていたということではないか。

宮嶋委員

会長からQ3が出された。村端委員が即対応して配信された。それで、私は「それで出せ

ばいいじゃないですか」と返事した。ところが、しばらくして事務局からまるっきり同じものがワードで出てきた。内容が違うならいいが、忙しいときに事務局が何故ワードに置き換えて出さなければならないのかが疑問だ。第2回ニュースレターもそうだった。せつかく村端委員が協力してやっているのに、そこが納得できない。私だったら、自分がやったことは何だったのだということになる。

山沖会長

時間差があったことが1つの理由だと思う。つまり、事務局と村端委員が、私からの原稿を受け取ってそれぞれ同時に作業していたということ。もう一つの理由は、最終的に出すときに修正も必要になるからということだと私は理解している。

宮嶋委員

当然修正は何回もある。意見があれば村端委員に言えばいいだけだ。議事録も事務局が忙しいからと村端委員が引き受けている。役場に任せれば1ヶ月かかるところを3日3晩でやっている。にもかかわらず、村端委員がつくったものを破棄してワードに直して印刷しようとしている。それでいいのか。

山沖会長

さっきから言うように、単なる時間差の問題だと思う。村端委員がQ3の修正原稿をすぐに出されるかどうかはわからなかったので、事務局に、修正部分を入れた形でつくっておいてほしいと頼んだために、それを作っただけということだ。

事務局（塩原係長）

今回は、時間のない中で結果的に同時進行になった。今後も村端委員に協力してほしいところがあるので、事前の打ち合わせをきちんとしたい。

宮嶋委員

同時進行で、一字一句同じになるわけがない。同じものでは理由にならない。

事務局（塩原係長）

最初の第一案として頂いたものをレイアウトとして参考にし、山沖会長からのワードの文書を入れた。

山沖会長

多分、第2回目にQ3まで入れたものを見て事務局が作ったということではない。

村端委員

ニュースを発行することになった場合、部会や委員会を待って誰がどうつくるのかという話をしていれば相当時間がかかる。それを避けるために、私がひな形をつくり、このようなものでどうかと部会の皆さんに提案した。

ワードで事務局が作ることが事前に分かっていたら何も問題なかった。私の作ったものが、どのように原稿になっていくのかを知らないままで、会長からQ3原稿を受け取り、すぐに私の原稿を直して皆さんに配信した。そのときに、事務局でワード原稿を作っていることは全く知らなかったものだから、事務局からのワード原稿が送られてきて驚いた。内情を明かせば、事務局に不快感を表明もした。

ともかく、始めからこのように作るという原則がはっきりしており、レイアウトについては意見を聞かせてほしいというのであれば、いくらでも協力できる。行き違いが結構あったのではないか。

私自身は、始めの原稿をつくる時も、内容もレイアウトも相当考えてつくっている。第2号でもそうだったが、今回も、事務局との関係があまりにもギクシャクしていた。

山沖会長

今後いろいろと情報交換し合い、どのように作るのかを相談してもらいたい。基本的には、最終的に発行主体が町であり、町で印刷して出すので、町で作ってもらうことでいいのではないかと思うのだが。

宮嶋委員

よくない。1号から表は町で、裏は委員会ということだった。町は、財政がどうしてこうなったのか赤裸々に示すものを本来出すべきだが、広報では通り一遍で当たらず触らずだった。美術館の問題でも、経費や収入について行政が広報で出したことはない。裏面は町民サイドで委員会が作るというのが本来の姿だ。表は事務局が、裏は委員会で作成するというをはっきりさせてもらいたい。両面とも事務局が作って出すということは反対だ。

山沖会長

その場合、単なる修正を含めて、今後も村端委員にお願いせざるを得ないことになると思うがどうだろうか。

村端委員

私が言いたいことは、委員会でニュースの中身が作られ、このようにレイアウトしてほしいということならいくらでもやるということだ。それを事務局が最終的に整えて印刷するのなら構わない。始めからワードで最終版を事務局が作るというのなら、そのように決めておいてほしいと言っているだけだ。私はイラストレータの扱いが簡単だから、それでやって

いるわけで、作り方が決めてあれば、始めから文章とレイアウトを分けておけば済む。そうすればレイアウトと文章は分けて出せばいいだけだ。

事務局（塩原係長）

宮嶋委員の発言についてだが、裏面について事務局が作成するのは、あくまで最終的な仕上げであって、中身はみなさんで決めていただく。行政が裏面にまで手をつけるなどということはない。

宮嶋委員

私が言っているのは、ソフトがどうということではなく、なぜ全く同じものを事務局で作直さなければならないのかということだ。それでよければわざわざ事務局の手を煩わすこともなく、そのまま印刷すればよい。

山沖会長

いずれにせよ、作り方については、これから村端委員と塩原さんでしっかり相談してもらいたいと思う。グラフについては、見やすいように、場合によっては村端委員のものを使うことも含め、お二人で一番やりやすい形で相談してやっていってもらうことにしたい。

村端委員

1号から3号まで、最初の原案をつくることはやったが、最後まで文章部分も含めてずっとやっていくことになれば負担が大きい。これまでも言っているように、文章の案が出来ればそれをレイアウトすることは簡単だ。事務局で、ワードで最終調整をすることにしておけば協力しやすいし、今回のような混乱は起こらない。

宮嶋委員

この件については、そのようにやって頂きたいと思う。

もう一点、森委員が辞任されたあとを行政が欠員にして9人にするという町長の考え方がわからない。町民からも一般公募で何人もやりたい人がいた。この委員会は定数が10人なので、是非定数を満たしてほしいと要望する。

事務局（塩原係長）

前回、大沢課長（前職）から話したとおり、任期後半からスタートすることになるのでこのまま9人でいきたいと説明し、皆さんからもとくに異論がなかった。辻委員については、前々から大野委員の後任として話があった。委員会としてもう1人増やした方がよいということであれば考えたい。

宮嶋委員

行政トップの考えが大事だ。町長の諮問機関であり町長の任命なのだから、まず長の考え方が先であって、委員会が求めればそれでいくというのでは、行政のあり方としてはいけないと思う。欠員にするのであれば、きちんとしたポリシーが必要だ。

事務局（塩原係長）

その点は、前回での話の通り 9 人でいきたいというのが町長の考えだ。ただ、皆さんの方で、どうしてももう一人増やしてほしいというのであれば内部で相談してみようと言った。

宮嶋委員

町長の方針が 9 人でよいと、そのようなポリシーなのであればそれで納得する。

<休憩>

(2) 諮問事項 2「公共施設の管理運営の改善に関する事」について

山沖会長

公共施設個別施設計画に載っている施設の中から、とりあえず優先的に 20 施設を取り上げている。以前、配布された資料の中の 56 施設から絞ったもので、これ以外にもプラスアルファがあるかもしれない。

とりあえず、2 ページの 20 施設について順次検討していったらどうか。ただ、議論しやすいように、いくつかを塊として議論していきたい。総務部会での提案は以上だが、何か付け加えることがあるか。

村端委員

部会や委員会で、過去に話があったかどうか記憶にないのだが、旧教育会館（現・役場書庫）が入っていないので取り上げてほしい。

宮嶋委員

北保育園が南保育園に統合されて 10 年になるが、旧北保育園の方向性が一向に出ていない。町としては早急に方向性を出すべきだ。それは旧教育会館も同じで、答申書の文言になるかどうかは別としても検討する必要はある。そのようなものは他にもあるので、併せて検討したらどうか。

山沖会長

最後にまとめて一括して扱うということでどうか。方向性を出すべきもの、効率的に使わ

れているかどうか検証すべきもの、必要に応じて処分すべきものなどもある。答申としては例示として列挙することも考えられるので、最後に一括して扱いたい。それでよろしいか。

(確認)

とりあえず、今回は、学校、保育園など子育て関係の施設について前回に引き続き議論したい。まず、資料について学校保育課長から説明をお願いする。

寺嶋学校保育課長

学校保育課は、小学校、中学校、保育園、会染児童センター、池田児童クラブ、あと文化財関係が所管になっている。

<以下、資料に基づいて、各施設の配置図(3～8ページ)、小学校児童数の推移および推計(9ページ)、保育園園児数の推移(10ページ)、児童クラブ・センターの年間利用者数、職員体制、管理費用などの推移(11ページ)の説明>

なお、説明中、資料の訂正あり。

=9ページ R4 池田小学校児童数 194⇒191、R4 会染小学校児童数 219⇒225

山沖会長

もう一つの資料は、児童数が今後どうなるのかが重要なので用意した。説明をお願いする。

<以下、保育園園児数の推移 宮嶋委員の説明(5ページ)>

<同、山沖会長の説明(1～4ページ)>

山沖会長

保育園児の推計では、私が117人、宮嶋委員110人だから、どちらにしても120人よりは少ないことになる。

小学校では、私の推計では社会的増加率×入学率を出しており、毎年1割から2割くらい生まれた人数よりは多めになっている。R9年度では私が290人。宮嶋委員は288人とほぼ同じだが、R10年度では私が258人、宮嶋委員は244人と少なくなっている。どちらが正しいということではないが、いずれにせよ、250人前後まで下がることは理解して頂けると思う。

このように、小学生・保育園児が現在から6割前後まで減ったときに、2つの小学校を維持すべきなのかどうか、保育園もどうすべきかを考えていくことになる。

続いて、村端委員から資料の説明を。

<20～40代の人口と出生数、池田町・松川村の出生数の推移 村端委員の説明(6、7ページ)>

山沖会長

20代、30代の人口の減少と同時に、未婚率の増加も大きな問題となっている。50歳までに結婚しない女性の割合が4分の1に上っており、高学歴が進んだこともあって、今では30歳までは結婚しなくてもいいという風潮がある。

このような傾向も含め、今後子どもの数が6割くらいまで減っていく中で、保育園・小学校をどうするのかを検討していくことになる。

説明が終わったので、質問・意見に移る。

辻委員

山沖会長の説明の中で、社会増の上乗せ部分が一定部分あるという話があったが、それがどれだけなのかボリューム感がよく分からない。

さきほど池田小学校の1年生が38人で2クラスという説明があったが、その中に池田町外で生まれた子どもがどれだけの人数なのか。また、保育園で一部他の自治体から受け入れている子どもがいるということだったが、どれくらいの人数か。

さらに、都市部や近隣自治体からの転入などの社会増がどのように推移しているか状況を知りたい。

社会増が増加傾向にあるのだとすれば、社会増をさらに増やす中核施設として保育園が必要だという議論もあり得るからだ。

寺嶋学校保育課長

池田小学校の1年生38名の中に転入者は確かにいるのだが、詳しい数字は後日報告させてほしい。

保育園の広域入所については、池田町に仕事に来ている方が子どもを池田町の保育園に預けるという例と、逆に池田町に居住している方が松本市の方へ仕事に行く際に松本の保育園に預けるという両方のパターンがあるが、そのような例は年間2、3件ある。

山沖会長

数字だけを見る限りでは、1人とか2人とかの数字になる。5ページの5歳児をみるとR3年度は65人、R2の4歳児は64人でこの子達は全員そのまま学年が上がっており、64人から65人になっているという状況だ。この数字を見る限り社会増は入学時に1.13倍、6年生の時に1.19となっているので、6年間では6%くらいしか増えておらず、年間にすると1人、2人が増えているという状況だ。

和澤委員

移住者の人数について、最近10年間くらいの中学生以下のデータを出してもらえばいい

のではないか。

山沖会長

私の方からいくつか聞きたい。まず、9ページの表で、池小でも会染小でも管理費と教育振興費を単純に足しても経費にならないが、これはどういうことか。

(「管理費決算額」の内訳である「管理経費」を2重に加算していることによる計算ミスであるとの指摘あり)

山沖会長

次に、10ページ保育園のバス運行事業について、平成27年度までは保護者負担だとされながら、平成27年度では400万円の決算額になっている。それ以後は70万円、40万円となっているが、その差額は何に使われていたのか。

寺嶋学校保育課長

バスは両園で各一台保有しているが、保護者負担ですべての費用を賄っていたわけではない。平成27年度までの決算額は毎日のバス運行の人件費、車両の整備代が主なものだ。

平成28年度以降は、通園では無く町内外への遠足などの行事でのバス利用の費用、車両の維持費で、40万円～70万円かかっているということだ。

辻委員

池田小学校の大規模改修にかかった費用を合算すると約3億円になるが、これから設計予定の会染小学校の大規模改修もその程度になるとみてよいか。

寺嶋学校保育課長

池田小学校は、大規模改修を1期から5期まで5年間実施しており、その他でもいろいろな細かい改修があり、約3億円かかっている。会染小学校についても、2階建て3階建ての違いはあるが、4年間で同程度の規模を想定している。

山沖会長

10ページの決算額のうち、令和元年度の臨時職員賃金が令和2年度では会計年度任用職員分に移ると思うが、下の特別保育費の内の臨時職員賃金については、会計年度任用職員分に加算されると思うが、この1500万円～1600万円が上の一般職会計年度任用職員分6500万円の一部と、下の240万円に分かれていく。これはどのように理解すればよいか。

寺嶋学校保育課長

特別保育費の内容は障害児の保育と一時保育で、通常の保育とは予算科目を別けている。国・県からの補助金が対象となっており、いままではそちらを厚く見て、正規職の予算をこちらで持たせてきたということだ。

山沖会長

そうすれば、令和2年度からは一般職の方に全部加算されるということか。令和元年度の一般職人件費のうち5900万円が令和2年度の臨時任用職員分に移ったという理解でよいと思うが、それ以上の増加分は何か。

寺嶋学校保育課長

人件費の上昇や会計年度職員導入の際の一部保育士の一時金ボーナスや現給保障などになる。会計年度任用職員の人数は増えてはいない。

(臨時職員から会計年度任用職員に変わった令和元年度と2年度の比較するなら特別保育費、一般職人件費の合計で)

山沖会長

最後に、11ページの児童センター、児童クラブだが、別の建物を使っているということによいか。

寺嶋学校保育課長

池田児童クラブについては、児童クラブのみの機能だが、会染児童センターについては、同じ建物ではあるが時間を区切って午前は無就園児が自由に使えるようにしており、午後2時半から6時半については放課後健全育成事業として時間を区切って児童クラブに固定している。

赤田委員

10ページ、表の下に決算額(歳入)というのがある。この欄をどのように活用すればいいのか。補助金が入ったために、町の負担額はどれだけになるのかが分かる資料がほしい。収入額だけでは町の負担がどれだけになるのかがわからない。

令和元年度の歳出は2億3700万円だが、このうち補助金がいくらで、町としての負担はいくらなのかが分かる資料がほしい。2ヶ所の保育園を運営するメリット、デメリットを考えたときに、この決算額だけを追いかけても町の負担が見えにくい。設備についての町の維持費を考えれば2ヶ所より1ヶ所がいいのだろうが、保育士の人数が増えても町の負担がほとんど無いのだとすれば2ヶ所維持することもありかと思う。単純に歳入・歳出を比較するのは難しいのではないか。

山沖会長

別途、補助金が出ているという理解でいいのか。町の負担は、単純に差引額にはならず、それに補助金などが入り町の負担額は、これより少ない額になるということによいか。

寺嶋学校保育課長

特別保育費を除いた児童福祉総務費の今年度の予算額が 2 億 1189 万 7000 円。うち一般財源は 1 億 8544 万 8000 円だ。

宮嶋委員

予算額は 2 億円で、そのうち一般財源からの持ち出しが 1 億 8000 万円くらいだということだ。

寺嶋学校保育課長

その通り。1 億 8544 万 8000 円の持ち出しで、特定財源が 2,644 万 9 千円になる。

山沖会長

次回までで結構なので、さかのぼりが難しければ 2、3 年分の数字を教えてほしい。

次に、先ほどの続きだが、児童センターは小学校・保育園と一緒にすることは難しいのか。

寺嶋学校保育課長

小学校の施設を、時間を区切って放課後に児童クラブとして使うことは可能だと思う。全国でもそのような取り組みをしているところはあるが、メリット・デメリットがある。池田がやってこなかったのには理由があり、児童センターの施設は小学生だけではなく 18 歳までの子どもを対象にするため、自由に使える施設を目指してきた。

最近では、学校の教師の働き方改革等があり、働く時間をしっかり区切って、あとの運営を児童クラブやセンターで管理してもらえるようにすれば考えられないことではない。ただ、小学生だけが対象ではないので、公共性の観点からデメリットも出てくる。

山沖会長

小学校と保育園を一緒にするというのはいりうるか。たとえば会染保育園と会染小学校というように。

寺嶋学校保育課長

池田町では、ゼロ歳から 15 歳まで保小中の連続性や継続性をできるだけ途切れないようにする 15 年プランを出している。ただ、保育園と小学校が全く同じ施設となると、ちょっと難しい面があると思われる。

距離が近い方がメリットは大きいと思うが、同じ施設を共用するとなると、未満児もいるので子どもの体格の関係やトイレ使用などに難点がある。

山沖会長

小学校は小学校で1つ、保育園も1つにするという考えがある一方で、会染・池田で、それぞれ小学校と保育園を一緒にするという考え方もある。これまでは前者の考え方で保育園の審議会の資料などを見ていたが、後者の考え方ではおかしい話になるのだろうか。

寺嶋学校保育課長

おかしくはないと思う。例えば、保育園の年長と小学校の1年生が同じように交流できることには大きなメリットがあり、保育園から1年生に上がる時の環境激変の問題は全然気にしなくてよくなる。ただ、未満児も含めると小1から6年までの年代と同じところにとというのは難しい面がある。

山沖会長

他の地域でそのような話を聞いたことはないか。

寺嶋学校保育課長

あることはある。池田でも、会染保育園の老朽化の関係で、一時、会染児童センターを改修して保育園を移設するという話があった。その理由は、センターが小学校のすぐ隣にあるためメリットも多いという見方があったからだ。

全国にも小学校と保育園を併設しているところはあるが、施設は分かれて隣接している。

山沖会長

会染児童センターを改修して保育園にする案は、結局、無くなったということであるが、その理由は何か。

寺嶋学校保育課長

審議会の中間答申で3案が提示されたので、教育委員会がアンケートを取って地域の方々の意見を聞いた。しかし、ほとんどの方が児童センターへの移設案に反対だった。県道に面していて安全面に難点があり、敷地も狭く園庭も十分確保できないなど保育園の環境に適さないということが主な理由だった。

山崎委員

先ほど課長さんの方から、児童センターが18歳まで使用できるとの話があったがそれではよろしいか。（「その通り」との声）

現状では、中学生以上は来ていないのかどうか。

寺嶋学校保育課長

小学生までがほとんどだ。過去には児童センターを利用していた子が中学に入ってから遊びに来たことはあったが、通常の利用としてはほとんどない。

山沖会長

池田・会染保育園、池田・会染小学校それぞれの定員はどうなっているか。

寺嶋学校保育課長

3 ページの平面図を見ると、例えば2年1組の下側に2年学習室があり、2階平面図の3年1組の下に3年学習室がある。ここはもともと2クラス配置されていたが空き教室になり、本来と違う使い方をしているところだ。会染小学校も同様で、両校とも2クラスは置ける作りになっている。

山沖会長

35人×2が1学年の定員で、その6年分ということによいか。

寺嶋学校保育課長

それだけは確保出来るということだ。

山沖会長

小学校は両方とも同じ定員数ということか。

寺嶋学校保育課長

そうなのだが、池田小学校については、会染小よりも、一時は3クラスまであった時期もあった。そのようなつくりになっている。

保育園については、池田保育園が150人、会染保育園が120人、合計270人だ。

山沖会長

令和8年度あたりの推計では100～120人になり、多少はぶれるとしても150人にはおさまるので、池田保育園に物理的には収容可能ということになる。

寺嶋学校保育課長

池田保育園の150人の定員について、3歳児以上の部屋は2クラスずつあり、それはいいのだが、未満児の入園率が最近上がっている傾向があるので、0歳～2歳の未満児を考える

と、そのまま物理的に入るかどうかは心配な面がある。

山沖会長

0～2歳児の定員は何人か。そのような定員はないのか。

寺嶋学校保育課長

定員は確認させてほしい。未満児については、国の基準に合わせ子ども3人に1人の先生をつけるということになっていても、それがなかなか難しくその通りにいかないところがあり、先生の数は多めに必要になる。

山沖会長

先生の数というより、建物の収容能力を聞いている。

寺嶋学校保育課長

その点は確認させてほしい。

辻委員

過去の報告書で、池田保育園に統合した上で増築した場合の経費が約4億円という試算が出ている。いま話があったように、0歳児から2歳児のための増築が必要になるとしても、そこだけ増築すれば4億円からはかなり費用が圧縮されるのではないか。

寺嶋学校保育課長

この試算は、現在の会染保育園の園児をそのまま池田保育園に移した場合に、これだけかかるということで、未満児を別途考えればもう少し金額が変わってくるだろうと思う。

山沖会長

審議会の答申では、将来の園児の推計が、令和10年度で170名くらいとかなり高めになっている。これでやろうとすると当然部屋が足りなくなる。

赤田委員

北保育園と南保育園を一つにして池田保育園を作って大分経っているが、その際に私の感触として会染保育園も着手するのと思ったら、ここまでズルズルと来てしまった。ここまで結論が出ないで来てしまった理由は何なのか。

和澤委員

池田保育園を作った勝山町長が、池田町の人口が減少するのだから会染保育園は建て替

えをしないと。10年後は池田に統合するという基本姿勢があった。それに対して、池田保育園を建てたのだから会染もそうすべきだと保育園の保護者が集まって要望書を出した。町は考えたいと回答した。保護者は当然建ててくれると思ったが、耐震化だけは先にやって、そのうち考えようということになり、結局時期を失ってしまった。これ以上は待てないということで、教育委員会で急遽審議会をつくり2年間かけて答申が出された。

中間答申では3案示されたが、小学校に隣接して移設する案はなくなり、今のところで建て替えるか、池田保育園と統合するかの2択となり、令和5年度までにどちらかに決めるという形になった。

寺嶋学校保育課長

勝山町長が、会染保育園の新築はしないと決めたという今の発言についてだが、平成25年に池田保育園が完成したあと、町としては建て替えではなく大規模改修を提案した。しかし、反対意見が出て、それから方向性を決められずにそのままになったということだ。平成26年に耐震補強の大規模改修が行われ、現在に至っている。

方向性については、今年度と来年度の2年間を目標にし、できるだけ本年度中に方向性を出していく必要がある。平成6年度には設計、7年度は工事期間、8年度に利用開始という計画になっている。

山崎委員

池田小学校の支援学級の話が出ていたが、これは今何クラスあるのか。また、各学年に置くような状況なのか。

寺嶋学校保育課長

9ページのR4を見ると、クラス数のうち特別支援学級4と書いてある。教室の配置は4なのだが、実際に在籍するクラス数は。アルプス（知的障害）とおおぞら1組、2組（自閉症・情緒障害）の3クラスだ。

学年単位ではなくて混在した形になるので、1年生と6年生が同じ教室になっているケースもあり、混在しているということだ。会染小学校は、みなみ1組から5組まで5クラスあり、知的障害学級が1クラスか2クラス、残りは自閉症・情緒障害の学級だ。自情障（自閉症、情緒障害）は学年単位というわけにはいかないの、複学年で構成されている。知障（知的障害）についても同様だ。池田小学校の特別支援学級は19人、会染小学校は手元に数字がないので、後で報告したい。

丸山委員

会染小学校の配置図の「ほっとルーム」とは、障害のある子どもが一時的に利用する部屋なのか。

寺嶋学校保育課長

ほっとルームは、子どもが所属するクラスということではなくて居場所だ。普通、通常教室か特別支援学級かのどちらかに所属することになるが、通常学級にいたくない子どもが、教室とは違う居場所として利用する中間教室的な部屋になる。

丸山委員

そうすると、ここを利用する子どもは、時期が来れば通常の学級に戻れるということになるのか。

寺嶋学校保育課長

そこはなかなか難しい。教室にいたくないときの、言わば保健室のような居場所になる。所属する学級に戻って集団で生活することが苦痛であったりする場合もあるので、自分の居場所をできるだけ確保するという意味で、もとの場所に戻ることをあまり強く指導せず、子どもの主体性を重視している。

丸山委員

そこには担任はいるのか。

寺嶋学校保育課長

町費で1人いる。6時間勤務になっている。

山沖会長

常勤でいるのは「ほっとルーム」だけか。集いの部屋などもあるようだが。

丸山委員

児童数が減ったことによって空き教室が出来た。そこで、集いの部屋を設けてそこで集会活動をしたり、行事に必要な道具を保管しておいたり、外国語教室という特別教室扱いの教室を作った。通常の学級が1学年2クラスあるような場合はこのような教室はなかなか持てない。例えば、外国語教室の場合は、教室が空いているためにここに外国語関係の教材を用意し、子どもたちがそこに行って授業を受けるというように、中学校の特別教室のような感じになっている。

辻委員

小学校で支援員がそれぞれ4名ずつと書いてあるが、この支援員とは何か。

寺嶋学校保育課長

県の職員の場合は、基準に応じて配置されているが、町でも、それをカバーするために、支援員という形で町費の職員を加配している。たとえば、池田小学校の場合は、小学校に入ったばかりの1年生のサポートのために、1名の加配職員を支援員としてつけている。

また、通常学級でも、1クラスが35人までいかないが30人以上の大人数の場合に、もう一人入った方が安定したクラス運営ができるために校長の裁量で加配している。

山崎委員

特別支援学級に現在19人いるということだが、1クラスは何人までか。

寺嶋学校保育課長

9ページの表の欄外にあるように、特別支援学級は1クラス8人までという国の基準がある。9人以上になると2クラス編成になる。

和澤委員

特別支援学級は、自閉症と情緒障害と、知的障害とは分かれているが、8人の中に情緒障害、知的障害の子どもが4人ずついた場合は1クラスでもよいのか。4人でも法律上2クラスにしなければならないのか。

寺嶋学校保育課長

自閉症・情緒障害と知的障害は確実に内容が異なるので、別のクラスにしなければならない。1クラス8人というのは、それぞれについてという意味だ。

昨今はインクルーシブ教育の話があるが、昨今、保護者から個別最適な環境を求めて逆に特別支援学級を希望する傾向も見られる。しかし、それが行きすぎるとクラス編成への影響も出てくる。以前は、特別支援を拒否することが多かったが、最近では子どもに個別に対応してもらえ、じっくり指導してもらえということ、希望者が膨らむ傾向がある。

和澤委員

同じ2年生でも、親の意向によって、知的障害がなくても特別に指導できる場を作ってしまうとまずいのではないか。通常クラスが少なくなり、同じ年代の子どもの接する機会が少なくなるのは問題だ。少人数はいいかもしれないが、実態は空き教室が半分ある外からは見えても、実際は、そのような形で埋まっている。どんどん少人数に行くと通常の生徒との接触の機会がなくなってしまう。それがいいのかどうか議論すべきではないのか。

宮嶋委員

教育委員会から、昨年11月に会染保育園の資料が公文書で出ているが、それには推計と

して令和7年の人数は180人、令和10年が170人になっている。私どもは100人～130人と推計しているわけだが、50人近くも多い。

推計でも公的な数字だから一人歩きしてしまう。基本的な数値が違えばその先も違ってしまう。基本的なデータを公文書にする場合は、こんなに違ってはよくない。審議会では、これをもとに方向性を出している。これほど違って、議論してほしいと言っても、前提が違えば方向性も全然違ってしまう。

この2年間に方向性を決めて6年度に設計、7年度工事、8年度でスタートと言っているが、正しい数字を町民に伝えて議論していただきたい。

山崎委員

保育園について、建てるとしてもその時期も大事な視点だ。答申の中で令和4年度から5年間は財政危機緊急対応期間と設定したことを意識しなければならない。会染保育園の計画において令和8年オープンとなると、この緊急対応期間はどうなるのか。このような大型事業の場合は、この期間との整合性があるのかどうかという問題がでてくる。

保育園を建てるとしても、先を見越して先延ばしし、これならゴーサインだという健全財政を視野に入れることが必要ではないか。だから建てる時期が問題になる。6億5千万円の会染西部圃場整備事業も同じ時期に浮上しているが、一方でこの時期だからこそ、次世代の子ども達に最高の教育環境を残したいという思いは強くなっている。

山沖会長

議論はこれで終わりというわけではないので、とりあえず今日はここまでにしたい。

村端委員

今後の議論の持って行き方、まとめ方、収束の見通しについて会長の考えを聞きたい。

山沖会長

とりあえず今日は議論を発散させることに重点をおいた。これで、だんだんまとまってくるのではないかな。

宮嶋委員から話があったように推計値が異なることも1つのポイントだろうし、教育施設が池田・会染地区のそれぞれの文化の中心だという意見もあるので、難しい面はあるが。

村端委員

今日は主に質問が中心だった。どういう方向にするのかという意見は時間があれば出せたのだが、次回にはどう収束させるのかを聞きたかった。

山沖会長

今回は、もう少し収束させなければならない。議論の進め方については、総務部会で話し合い集約を図りたい。

今日は学校保育課長が出席されない中で話し合っていたので、今日はいろいろお話を聞いたということもあった。

和澤委員

審議会の答申では、建て替えか統合化の2択になっている。だから、答申もそのどちらを選ぶのか、財政的に見てこちらの方がよいという意見にするのかだ。小学校はまだ緊急性はないので、10年先あたりに統合を考えたかどうかという程度のまとめ方でもよいかもしれない。

6. 今後のスケジュール

山沖会長

事務局から今後のスケジュールなどについて報告をお願いしたい。

事務局（塩原係長）

- ① 第19回委員会～第20回委員会は書面の通り。前回確認したとおり、24回委員会では答申が予定されているので、審議の配分を考えてほしい。
- ② 財政シミュレーションは議会で説明してからとなるので、5月12日には出来ると考えている。
- ③ 第17回議事録をホームページにアップした。
- ④ 今後の議事録の作り方について、村端委員の協力を得て、前回と同様に第1次原稿は直接委員の皆さんに送り、各自で直したものを事務局に送ってもらい、最後に事務局から最終校正を送付するという手順にするのでよろしくをお願いしたい。

7. 閉会（丸山副会長）